

まちなみ

VOL.1 NO.1 1980/8



鹿児島県知覧町 武家屋敷のまちなみ

第 1 号

住 財 団 住 宅 生 産 振 興 財 団
法 人

楽しい住まい

住宅生産振興財団 会長

浅村 廉

わが国の住宅も既に量の時代から質の時代に入って、文化国家にふさわしい住宅のあり方が探究されていることは、当然のことながら、やっと来るべきものが来たという感じである。

いうまでもなく住まいの問題は複雑で大変むずかしい。然しながら何よりも先ず大事なことは、その住宅が人々の明日への活力を養う憩いの場所であり、暖かい人間関係が広がる楽しい居住空間でなければならぬということである。この条件を満たすためには、住宅の立地、構造、性能、価格等もさることながら、その居住空間とこれを包含する都市空間、更には地域社会とのかかわり合いなども充分検討されるべきであろう。手近かなところでは、先づその住宅が集まって造り出す環境を重視しなければならない。個々の住宅がその存在を主張するだけでは物足りない。その上に立って、集合体全体としての主張がも

うひとつなければならぬ。

それぞれの住宅が、渾然一体をなして調和のとれた潤いのある街並みを形成し、快い都市景観の一部を造り出すようなものであつてこそ、文化の時代にふさわしい住宅と胸を張ることができるであろう。

当財団がそうした考えのもとに、適地を選んで企画立案したプロジェクトに、業界各社が協同参加し、互の技術を競いながら全体としてまとまりのある街造りに貢献するということは、いろいろな意味でメリットが頗る大きい。まさに新しい時代の要請に応えるものであるとうと自負しながら、こうしたプロジェクトが全国に美しく花開くことを私は何時も夢みているものである。文化の時代にふさわしい潤いのある楽しい住まいの普及をめざして、私はこの夢を大切に育ててゆきたいと思つている。